

令和5年度 授業改善推進プラン 2年

小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①児童が主体的に学ぶ授業の充実【学校経営方針】 ②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「進んで学習している」「集中して取り組んでいる」への肯定的回答率がそれぞれ、82%、84%である。このことからほとんどの児童が、主体的に授業に参加していると考えられる。 ②ICT 機器の活用に関しては、まだ経験が浅い。できることを増やし、学習に対して効果的に使えるようにしていきたい。	①児童の関心や学ぶ楽しさの実感、単元や指導事項にもよると思われる。書きたい事柄を順序良く文章に書き表すことや、説明的な文章の情報と情報の関係について理解するなどの活動では、個人差が大きくなると考えられるので、考える手がかりを提示したり学習過程をスモールステップにしたりするなどの工夫をする。 ②学習支援アプリを活用し意見や感想を交流することで、興味関心を高め、多様な意見を知ることで理解を深められるようにする。学習者用端末が活用できる機会を意図的に設けていく。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】	①東京ベーシックドリルの診断テストで前学年の既習内容が7割以上定着している児童は4月の時点で68.5%だったが、7月では72.6%まで向上した。 ②1学期の授業アンケートから8割以上の児童が学習にすすんで取り組んでおり、授業でも積極的な発言や意欲的な姿勢が多くみられる。自分の考えを式や図などに表現することや、自分の思いを伝えることに苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。	①東京ベーシックの活用を進め、さらに7割以上の児童を8割にまで高める。学期始の診断テストで7割に満たない児童は補充学習を各学級で行う。学期末の診断テストを活用し、その結果を評価する。 ②ICTを活用し、模範児童の式や図、グラフ等を活用しながら表現する活動の手本を示す。また、自分の考えや思いを伝える方法として話型を示すなど全ての児童に表現活動の方法を理解させる。
生活	①主体的で深い学びを実現するため、気付きの質を高める授業の実現【学校経営方針】 ②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①生活科の学習に対しては多くの児童が意欲的に臨んでいる。観察したことや発見したことを活発に意見交換する児童が多いが、内容が表面的なことが多い。 ②学習者用端末の扱いについては少しずつ習熟してきている。	①生活科における主体的・対話的で深い学びを実現するには、気付きの質を高めることが重要となる。繰り返し見る、見取ったことを交流し発見の質を高めるなどの仕掛けのある授業を工夫する。 ②学習支援アプリなどを活用し、観察したものの写真やそれに対する気付きなどを交流する活動を効果的に取り入れる。
音楽	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】 ②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が89%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられるが、そう思わないとの回答が11%になるため、楽器演奏などの個人の差がしやすい題材などの配慮が課題となる。 ②音楽演奏の多様な可能性をタブレット教材で体験することができた。学習支援アプリを使用し、リズムの楽しさや旋律づくりの一環として音の動きを体験した。	①感覚統合が促進されるような常時活動や、体を動かす活動を取り入れることで、音楽的なコミュニケーション能力を高め、友達と一緒に表現する楽しさを感じ取ることができるように進めていく。 また、楽器演奏は個人のスキルに沿った指導を心掛ける。 ②実験のまた遊びになっってしまうないように、実態に即した教材を選ぶことで学習意欲を喚起し、ICTを活用して、スモールステップの課題をくり返し練習させることで技能の習熟を図る。
図画 工作	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】 ②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	①1学期の授業アンケートの結果から9割以上の児童が学習にすすんで取り組んでいるが、自分の作品づくりに取り組むことに時間がかかる児童の姿も見られる。 ②アンケート結果から授業に集中して取り組んでいることが分かる。一方で、友達のよさを認め合ったり、取り入れたりする姿があまり見られない。	①②教師の見本（複数の種類、教師のねらいを落とし込んだものなど）を充実させたり、友達の作品を共有する時間を設定させたりする。年間の活動を通して、単元ごとのよさや面白さに気付かせるようにする。

<p>体育</p>	<p>①基礎体力の向上、体育的活動の充実【学校経営方針】</p> <p>②ふり返し活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①1学期の授業アンケートの結果から「授業中、すすんで学習している。」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は約9割であり、積極的に活動に取り組んでいることがわかる。休み時間を利用して、日常的に体を動かすことも必要である。</p> <p>②アンケート項目「授業は分かりやすい」において、9割以上の児童が分かりやすいと実感しており、定期的な振り返りを行い児童の「分かった」をさらに高めていく必要がある。</p>	<p>①より運動の日常化につながるように、<u>児童が取り入れやすい（真似しやすい）活動を授業に設定していく。</u>また、教師自身が休み時間に児童と共に活動し、<u>児童の実態を把握し、授業に生かしていく。</u></p> <p>②児童の「分かった」を高めていくために、<u>活動に合った振り返り（ハンドサイン・挙手、ワークシートなど）を行っていく。</u>手本となる動きについてICTを活用して振り返りを行うなど工夫をする</p>
<p>道徳</p>	<p>①児童が主体的に学び、基礎基本的な学習を定着させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②ICT機器の活用した振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①意欲的に取り組める児童が多いが、自分自身の意見を発言することや振り返りをペア、小集団活動で共有することができない児童が一定数いる。</p> <p>②学習者用端末の扱いについては、慣れてきており、学習者用端末を活用した学習は意欲的である。ICTを活用した振り返りの充実をさらに高めていく必要がある。</p>	<p>①児童自身の考えや経験を積極的に取り入れさせ、発表の機会を多くつくり、<u>自分の意見や思考を表現させる。</u>また、<u>授業のテーマにおける振り返りを実施し、自身の成長や理解度を児童が感じられるようにし、学習の定着を促す。</u>視点を絞った声掛けや発問をし、児童から考えを引き出す。</p> <p>②学習支援アプリなどを活用し、<u>児童自身の振り返りや意見を入力、共有させることで、他者と自分の考えの違いに気付かせ、児童の考えを深めていく。</u></p>